

事務局

【ILSI Japan 総会】

1, 2 月	<p>ILSI Japan 通常総会は 2 月 17 日、アーバンネット神田カンファレンスにて開催された。</p> <p><審議事項></p> <p>第 1 号議案「平成 27 年度事業活動報告書」承認</p> <p>第 2 号議案「平成 27 年度活動収支計算書、同貸借対照表、同財産目録、及び収益事業損益計算書」承認。</p> <p>第 3 号議案「平成 28 年度事業活動計画書」承認</p> <p>第 4 号議案「平成 28 年度活動収支予算書」承認</p> <p>第 5 号議案 定款の一部改定が承認された。</p> <p><報告事項></p> <p>1. 次期役員の紹介があった。</p> <p>2. 1 月 21 日から 27 日まで米国フロリダ州で開催された ILSI 本部総会の報告がなされた。</p> <p>3. 平成 27 年度農林水産省食品産業グローバル展開インフラ整備事業「食品産業のグローバル展開～食品規格等に関する調査とデータベース、ASEAN 経済統合と TPP～」についての報告会を午後 1 時 30 分より同会場で行うとの案内があった。</p>
3, 4 月	
5, 6 月	
7, 8 月	
9, 10 月	
11, 12 月	

【事務局】

1, 2 月	<p>○平成 28 年 2 月 25 日付にて役員が選任された。</p> <p>①重任理事・監事 (アイウエオ順、敬称略)</p> <p>理事 阿部 文明 森永乳業 (株) 素材応用研究所長</p> <p>理事 岩元 睦夫 公益社団法人 日本フードスペシャリスト協会会長</p> <p>理事 木村 修一 東北大学名誉教授</p> <p>理事 桑田 有 人間総合科学大学大学院教授</p> <p>理事 古野 純典 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事</p> <p>理事 坂田 隆 石巻専修大学学長</p> <p>理事 清水 誠 東京農業大学 応用生物科学部栄養科学科教授</p> <p>理事 辻村 英雄 サントリーホールディングス (株) 専務取締役</p> <p>理事 戸上 貴司 ILSI Japan CHP (健康推進協力センター) 代表</p>
--------	---

	<p>理事 福島 昭治 中央労働災害防止協会 日本バイオアッセイ研究センター所長</p> <p>理事 松山 旭 キッコーマン（株）常務執行役員</p> <p>理事 安川 拓次 花王（株）エグゼクティブ・フェロー</p> <p>監事 小路 正博 （株）森永生科学研究所 代表取締役社長</p> <p>②新任理事</p> <p>理事 宮澤 陽夫 東北大学 未来科学技術共同研究センター（NICHe）教授</p> <p>理事 谷口 茂 （株）明治研究本部 取締役 食機能研究所 所長</p> <p>理事 木村 毅 味の素（株）取締役 常務執行役員</p> <p>③新任監事</p> <p>監事 山田 雄司 山崎製パン（株）中央研究所 所長</p> <p>④退任理事・監事（平成28年2月24日付任期満了）</p> <p>理事 西山 徹 元）味の素（株）顧問</p> <p>理事 山口 隆司 ILSI Japan 事務局長</p> <p>理事 若林 奏 （株）ニチレイ</p> <p>監事 辻 智子 日本水産（株）研究学術顧問</p> <p>○平成28年2月24日付にて山口隆司事務局長が退任し、平成28年2月25日付にて新たに宇津 敦氏が就任した。</p>
3, 4月	
5, 6月	6月末日付にて、総務・経理担当 内田氏退職、7月より同職に花王（株）俵積田（たわらつみた）氏に業務を委託
7, 8月	
9, 10月	特になし。
11, 12月	特になし。

【理事会】

1, 2月	<p>○平成28年度第1回理事会（2月8日）</p> <p><審議事項></p> <p>第1号議案「平成27年度事業活動報告書（案）」承認</p> <p>第2号議案「平成27年度活動収支計算書（案）、同貸借対照表（案）、同財産目録（案）、及び収益事業損益計算書（案）」承認</p> <p>第3号議案「平成28年度事業活動計画書（案）」承認</p> <p>第4号議案「平成28年度活動収支予算書（案）」承認</p> <p>第5号議案平成28年2月24日の役員任期満了に伴い、次期役員が選任された。</p> <p>第6号議案 定款一部改定が承認された。</p> <p><報告事項></p> <p>1. ILSI Japan 総会／アジア地域の食品規格等に関する調査</p>
-------	--

	<p>ILSI Japan 総会は 2 月 17 日午前 10 時よりアーバンネット神田カンファレンスにて開催、午後には平成 27 年度農林水産省食品産業グローバル展開インフラ整備事業「食品産業のグローバル展開～食品規格等に関する調査とデータベース、ASEAN 経済統合と TPP～」についての報告会を行う。</p> <p>2. 1 月 21 日から 27 日まで米国フロリダ州で開催された本部総会の概況報告があった。</p> <p>○平成 28 年度第 2 回理事会（2 月 25 日）</p> <p>第 1 号議案 理事長に安川拓次理事が選出された。</p> <p>第 2 号議案 会長木村修一理事が選出された。</p> <p>第 3 号議案 副理事長に桑田有理事、木村毅理事、福島昭治理事、古野純典理事が選出された。</p> <p>第 4 号議案 理事長に事故があるとき、または理事長が欠けたときに職務を代行する副理事長として、桑田有副理事長が選出された。</p> <p><その他></p> <p>山口隆司氏が 2 月 24 日をもって事務局長を退任し、25 日より宇津 敦氏が後任事務局長に就任したとの報告があった。</p>
3, 4 月	<p>第 3 回理事会が平成 28 年 4 月 13 日（水）15 時より開催された。</p> <p>1. 理事長の所信表明</p> <p>新体制になって初の理事会であり、理事長から以下のとおり所信表明があった。</p> <p>『イルシーは転換期にあると感じている。本部との関係、WHO との関係も、過渡期にありがちな問題のひとつととらえることができる。</p> <p>本日の議題はいずれもそれらの課題と関係している。例えば、本部の One ILSI 戦略であるが、我々の研究部会のテーマを One ILSI の視点で見直すことが必要だと考える。これから進んでいくにあたって、協調が大事であるが、それは発展のためのものである。』</p> <p>2. 報告／討議事項</p> <p>下記事項を資料に基づき報告し討議した。</p> <p>(1) ILSI 本部関連</p> <p>宇津事務局長より WHO と ILSI との関係の経緯及び当面の対応について報告した。</p> <p>次回の電話会議に当たって ILSI Japan の対応をこの会で決めることはしないが、今後 ILSI SEAR と協調する方向で努力することとなった。</p> <p>(2) 食品規格基準等調査事業（農水省）の今後</p> <p>浜野特別顧問より 2016 年 3 月 29 日農林水産省食料産業局訪問時の内容につき下記の報告を行った。</p> <p>出席者：櫻庭食料産業局長、栗栖輸出促進課長補佐 横田食品製造課食品企業行動室長他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品規格基準等調査事業の継続の必要性を説明した。 ・櫻庭局長から、「産業界への広報をしっかりとやるように」「法は時とともに変わる、最新情報に更新することが重要」「データベース情報の適切な発信の仕方、企業の関

	<p>連部署（品質管理、海外戦略）や ILSI の支部の連携のあるべき姿を描いてもらえれば、H29 年度から調査を再開できる」との意見・指示をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・櫻庭局長から輸出促進課と食品製造課で話し合うように指示された。 ・29 年度からの再開のために、今年度中に浜野氏を中心に検討を進めることとなった。 <p>(3) 東大寄付講座の今後</p> <p>宇津事務局長より、2016 年 3 月 23 日、東京大学農学生命科学研究科・農学部フードサイエンス棟 3F、阿部教授室で行われた東大寄付講座打ち合わせについて報告した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿部教授によれば、五神総長は、産官学連携の強化を推進しており、ILSI 寄付講座（1 社でない 3 期継続）を高く評価しており、新たな形の寄付講座の可能性があるとされる。 ・4 期目を続けながら、次の新しい形を模索する。大学に自由度がある（大学がテーマを設定できる）ことに意味がある。 ・3 期目の公開発表は 9 月 14 日一条ホールで開催することに決定。 ・ILSI Travel Award に岡田先生を推薦する。 <p>(4) ILSI Japan の活動、特に部会活動の活性化に向けて宇津事務局長より食品微生物・バイオテクノロジー・食品リスク・栄養の各研究部会長ヒアリングの結果を報告した。状況が厳しい部会については、てこ入れの必要性が指摘された。今後、引続き他の研究部会長のヒアリングを行っていく。</p> <p>(5) CHP グローバル化検討進捗</p> <p>戸上理事より 2015 年 ILSI Annual Meeting, Board of Trustees で提案した Global CHP の進捗について報告した。この中で、アフリカやラテンアメリカに活動を展開する可能性、とくにアフリカでの鉄強化米プロジェクトの進展について詳細な説明が行われた。理事からは「これまで ILSI 本部が行ってきた TAKE10!®（小学生向け）の成果を含めて ILSI Japan が引き継いで、日本における高齢者向けの TAKE10!® と共に発展させるべきである」という提案があった。</p> <p>(6) “One ILSI” Sustainable Agriculture & Nutrition Security について</p> <p>桑田副理事長より “One ILSI” Sustainable Agriculture & Nutrition Security について、食品ロスやヴァーチャル・ウォーター、TPP との関連など、どのような切り口があり得るかという点も含めて報告があった。今後、理事会で研究部会の立上げを含め討議していくことにした。</p>
5, 6 月	<p>第 4 回理事会が平成 28 年 6 月 7 日（火）15 時より開催された。</p> <p>1. 審議事項</p> <p>第 1 号議案 福島昭治氏の理事退任の件 満場一致で承認</p> <p>第 2 号議案 中江大氏の理事選任の件 満場一致で承認 本人承諾</p> <p>2. 報告／討議事項</p> <p>1) 東大寄付講座研究成果シンポジウム（9/14 開催）について報告</p> <p>宇津事務局長より 準備進捗状況の報告があった。6 月半ばには統一テーマ、発表テ</p>

ーマと発表者を決定予定。

2) 東大寄付講座の今後

安川理事長より、東大と打合わせの結果、現在の寄付講座の実施とは別に、農学部を超えた大きな枠組みで、多くの企業が参画できる大きな共通テーマの寄付講座の創設を進める方向であることの報告があった。

3) 新たな研究分科会の提案

同理事長より現在「健康な食事」研究分科会の設置について検討しており、提案の研究分科会設置の目的は、主に外食と中食（弁当・給食・惣菜等）を担う企業がアカデミアと共同して、科学的根拠に基づいて日本人の「健康な食事」の概念を確立し、その普及を図ることで国民の健康の維持・増進に寄与することであることが報告された。

4) 農水省食品規格基準等調査事業の今後

浜野特別顧問より以下の通り報告があった。

- 平成 28 年度調査活動/調査情報は、情報一元化のため、今のデータベースを JETRO にリンクさせることになる見込み。
- 平成 29 年度の本調査事業の再開の有無が、明らかになるのは 9 月以降と推測される。

5) CHP グローバル化検討進捗について

戸上理事より以下の報告があった。

2015 年 1 月の ILSI 本部理事会でプレゼンテーションを行い ILSI 本部のミッションであることが確認され、今後 CHP の活動の範囲、組織、財政等について検討するためのスタディグループが設置された。ILSI JAPAN から戸上理事・山口顧問が選任され、新しい地域でのフィジビリティスタディーを実施する提案が出され、担当者を決め 8 月 12 日を目標にフィジビリティスタディーの結果を報告することとなった。

6) ILSI 本部関連、WHO との関係についての進捗

宇津事務局長より以下の通り報告された。

5 月 28 日の WHA;”WHO’s Framework for Engagement with Non-State Actors”を採択。この枠組みの中で、ILSI は Private sector の中の International Business Association に属すると WHO 事務局から繰り返し言われてきた。

⇒ ILSI=International Business Association と実質的に決定。

7) 定款変更（役員任期条項）について

宇津事務局長より東京都に申請していた定款変更（役員任期の条項）について状況が説明された。

2/17 の総会で決議した定款の変更（役員任期を総会までと明確化）は総会の日が固定でなく、任期が 2 年を超過した場合には法令違反となるため東京都から認証されない見込み。定款を現状のままにするか否かについては次回審議。

8) その他

•2017 年 October 15-20, Argentina Buenos Aires で開催される International Congress of Nutrition 2017 に ILSI は 3 つのシンポジウムを設けるが ILSI JAPAN としては参加しないこととなった。

	<ul style="list-style-type: none"> •福島理事の退任で副理事長が3名になっているので、新副理事長候補は、次回の理事会にて提案予定。 •研究会、研究部会活動強化のためのフォローを徳田一氏（花王）に依頼。 •特別顧問の山口隆司氏は、6月末までで退任。
7, 8月	<p>第5回理事会が平成28年7月28日（木）15時より開催された。</p> <p>報告／討議事項</p> <p>1) 東大寄付講座発展型創設に向けて進捗状況</p> <p>新たな寄付講座は、安全性評価など大きなテーマを対象としたい意向を東大側に伝え、ILSI Japan 内部の体制と担当者を決定した。具体化に向け、タスクフォースを組織し、年内にテーマ案を提示し、来年にはシンポジウムを開催する企画。テーマについて意見交換がなされた。</p> <p>2) 健康な食事研究会（仮）設立に向けての報告</p> <p>存在感を増している外食と中食の改善は食生活の改善につながるため、その実態の解明をコアテーマのひとつとし、外食・中食企業に参加してもらうために魅力的なシンポジウムを企画する必要がある、そのために ILSI Japan 内部でタスクフォースを結成、来年2月開催を企画。高齢者向けの新たなサービスの提案のほうがよいとの意見が出た。</p> <p>3) 「日本くすりと食品機能フォーラム」の概要と進捗</p> <p>ILSI Japan 会員企業が、自社の機能性食品について薬剤師へ説明し、食品の機能に関する知識を持ってもらうことを目的としており、理事会での認識とコミットが必要と考え今回説明に至った。内容については特に意見なく、今後の進め方、他の大学への拡大の可否、栄養の勉強の追加検討など意見が出され、これらを考慮して今後進めることで合意された。</p> <p>4) 食品微生物部会 New Generation Sequencing 分科会設立</p> <p>ILSI Europe 支部からの提案を受け、Expert team に参加することを決め、具体的活動として New Generation Sequencing の食品安全への活用ガイダンスのまとめ、アドバイザーの指名、そのため ILSI Japan 内部に分科会を設立する提案がされ、承認された。</p> <p>5) 定款変更（役員任期条項）について</p> <p>一、現状のままで定款変更をしない；役員任期は2月25日から翌々年の2月24日までの2年間、二、役員を総会で選任するよう定款を変更する；役員任期は総会から総会の2年間以内、但し、総会のタイミングで延長の場合ありの2提案をした結果、現状で問題ないとの意見で定款変更しないことが合意された。</p> <p>6) 2016年度損益見込み</p> <p>連結ベース6月末時点で、1.1百万円の赤字の予定。原因は会費の減少、農水省食品規格等調査事業終了に伴う、受託事業で負担させていた人件費・旅費の追加による。改善として新規プロジェクト等で新たな会員を増やす、活動を魅力的にして新たなFUNDを得るなど、収入増加策を講じて新規会員を増やす方針で進めたい旨を報告。</p> <p>7) ILSI 本部関連</p> <p>WHO との関係における進捗について、共同事業は行わないという方針に変わりは</p>

	<p>ないが、8/8の理事会において、WHOをいかに継続的にサポートするか、ILSIが公益のために活動する科学的な組織であることをより強調するためのガバナンス構造改善の議論をする予定。今後もILSI本部の動きを静観することを合意した。他にILSI Mexicoの復活とILSI Middle Eastの設立を報告。</p> <p>8) その他</p> <p><u>CHPグローバル化検討進捗の報告</u></p> <p>第一弾のFeasibility studyをアフリカ対象にて開始。主体はResearch Foundationで、8月中に予備調査の結果が報告され、次に日本CHPと共同で、8ヶ国(サハラ以南)でFeasibility studyを開始する計画。来年1月のILSI本部総会で承認をもらうべく、組織、運営、資金等の提案を今後準備する。</p> <p><u>TAKE10の商標使用について</u></p> <p>TAKE10の商標はILSI—RFが維持し、各支部にはフリーライセンスとするが、使用した場合は報告義務があることが報告された。</p> <p><u>2017年度理事会開催日程</u></p> <p>理事会出席の日程確保を容易にするため、来年の開催日を今から設定しておくことを提案；2/7、4/21、7/25、10/27の4日間。</p>
<p>9, 10月</p>	<p>第6回理事会が平成28年10月26日(水)17時より開催された。</p> <p>決議事項</p> <p>議案 今年度収支見込一次案、来年度収支予算一次案</p> <p>事務局より説明があり、今年度見込については特に意見はなかった。来年度収支予算については、ILSI JAPAN CHPが若干の損失であり、担当理事よりCHP活動の財務基盤対策が来年度の課題であり、グローバルNPO、WHO、日本政府、グローバルな食品・飲料企業等にサポートを仰ぐ予定であると補足した。収支見込、予算共に全員一致で承認された。</p> <p>報告/決議事項</p> <p>1. 健康な食事研究会(仮)設立に向けて</p> <p>今回は会発足時のシンポジウムでの講演内容とタスクフォースのメンバーに関し、理事長より案が提示された、講演者について厚労省や農研機構、外食・中食・給食企業等からメンバーが数名推挙された。早急にタスクフォースメンバーを招集し、検討を継続する。</p> <p>2. 発展型ILSI 寄付講座について</p> <p>新講座の位置づけ、関与する大学や学部を選択等、時間をかけて進める意向や、内容はリスクよりも健康機能の追求に決定した経緯の説明が理事長よりあり、臨床系を入れるべき、機能性食品のマーカが見えると食品業界が注目する、医薬品系食品系企業の有する知見を使い、メタボ、ロコモ、認知症に対してマーカを探す、等の意見が出された。タスクフォースを組んで進めることで合意した。</p> <p>3. 来年度本部総会の概要</p> <p>今回は「Food Safety」、「Nutrition」の2つのテーマに集中。総会前に活動計画を作成し、支部間で共有。この活動計画を本部総会の一連の会議でブラッシュアップ。特</p>

	<p>に理事より意見・質問なし。</p> <p>4. ILSI 本部に報告する 2017 年活動報告案</p> <p>栄養：健康な食事研究会</p> <p>食品安全：食品微生物研究部会 MALDI-TOF/MS 分科会</p> <p>同上：NGS (New Generation Sequencing) プロジェクト</p> <p>理事より意見・質問なし。</p>
11, 12 月	<p>第 7 回理事会が平成 28 年 12 月 21 日 (水) 15 時より開催された。</p> <p>決議事項</p> <p>議案：今年度収支見込最終案、来年度収支予算最終案</p> <p>事務局より、今年度見込が連結ベースで若干の損失になり、その原因が CHP の収入に起因するものであると説明。監事より支部総会に向けて、Q&A を作成するよう指示あり。来年度収支については、一次案を見直した結果、連結ベースでは黒字とした。理事長より、国内 PAN 活動の縮小傾向について言及あり、それについて理事間で提案が出た。担当理事より、活動を実施するための資金の確保が先決で、本部に対してグローバルに集めるようすでに提案している。1 月の本部総会で結論がでるので待つて欲しい旨説明あり。議案については、全員一致で承認された。</p> <p>報告／討議事項：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康な食事研究会 (仮) 設立に向けて <p>設立シンポジウムの内容について、講演テーマ、講演者、パネリスト、後援団体等がほぼ決定したと事務局長より進捗状況の報告をした。外食・中食・給食業界の方々への開催の連絡方法や当日メディアへの声掛けが確認された。</p> 2) 発展型 ILSI 寄付講座について <p>年末にタスクフォースを開催し、選任メンバーが充分議論する予定を説明。</p> 3) 本部総会での発表の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・「食品安全」は、リスク問題の全体のとらえ方と特徴的な「MALDI-TOF/MS」を用いた菌種同定技術の確立を説明 ・「栄養」は、今後実施予定の「健康な食事研究会」の内容を中心に説明 ・「ポスターセッション」は、「健康な食事研究会」の活動計画内容を中心に掲載 4) 支部総会次第案 <p>議事：「平成 28 年事業活動報告書 (案)」の承認、「同決算報告書 (案)」の承認と「平成 29 年事業活動報告書 (案)」の承認、「同収支予算書 (案)」の承認</p> <p>報告：1 月の本部総会報告、前回総会で説明した理事任期期間の定款変更の結果報告案を例年よりわかりやすくし、活動の中身が見える総会にする。</p> 5) ILSI Mandatory Policies (必須方針) <p>本部が作成した、支部が従う「必須方針」の内容について事務局長が説明。順次整えるという方向で実施。</p>